

豚コレラ及びアフリカ豚コレラに関する特定症状について

平成30年9月9日、岐阜県の養豚農場において26年ぶりに発生した豚コレラは、3月7日までに合計11例と発生が拡大しています。また、野生いのしし検査では、岐阜県及び愛知県で相次いで陽性事例が確認されています。

このような状況から、豚コレラ及びアフリカ豚コレラが疑われる異常豚が確認された場合に、所有者や獣医師から家畜保健衛生所に直ちに通報がなされるよう、口蹄疫等と同様に、家畜伝染病予防法に基づく、以下に示す特定症状（所有者等が豚の異状を確認し、自ら家畜保健衛生所へ通報する症状）を定める方針が国から示されました。

【特定症状】

家畜の種類：豚及びいのしし

対象疾病：豚コレラ及びアフリカ豚コレラ

- (1) 耳翼、下腹部又は四肢等の紫斑
- (2) 以下の症状が一定期間（概ね1週間程度）増加していること
 - ・ 摂氏40度以上の発熱、元気消失、食欲減退
 - ・ 便秘、下痢
 - ・ 結膜炎（目やに）
 - ・ 歩行困難、後躯麻痺、けいれん
 - ・ 削瘦、被毛削剛、発育不良（いわゆる「ひね豚」）
 - ・ 流死産等の異常産
 - ・ 血液凝固不全に起因した皮下出血、皮膚紅斑、天然孔からの出血、血便
 - ・ 複数の繁殖豚、肥育豚の突然死

通報の遅れは、豚コレラの防疫措置を遅らせ、豚コレラをまん延させる可能性が高く、さらに、アフリカ豚コレラが国内に侵入した際の発見の遅れにもつながります。

関係者におかれましては、引き続き飼養衛生管理（特に農場の入退場時における車両等の消毒、更衣及び靴の交替・消毒等の衛生措置）を徹底し、本病の侵入防止に努めるとともに、上に示す特定症状が確認された場合は、速やかに家畜保健衛生所へ通報するよう御指導をお願いいたします。

豚コレラ発生に係る緊急防疫対策会議を開催しました

平成31年2月7日（木）、中央家畜保健衛生所と管内の関係機関との家畜伝染病の発生等の情報を共有し、今後の防疫対策を徹底するため、国内における豚コレラ発生に係る緊急防疫対策会議を開催しました。

会議では、国内の豚コレラ発生状況、最近の家畜伝染病（アフリカ豚コレラや口蹄疫）の発生状況及び本県の家畜伝染病発生に対する防疫対応について説明しました。



ワクチンで牛ウイルス性異常産を防ぎましょう

牛の異常産の原因として、ヌカカなどの吸血昆虫が媒介するアルボウイルス（アカバネ、アイノ、チュウザンウイルスなど）があります。

ウイルス性の異常産は、初夏～晩秋にかけて吸血昆虫により伝播されるため、吸血昆虫の活動が活発になる前の4～6月に母牛へワクチンを接種し、牛の免疫力を高めておく必要があります。接種を希望される方は、市町村の畜産担当者にお知らせください。

また、ワクチンや異常産についてのご質問は、中央家畜保健衛生所もしくは中央地区家畜自衛防疫促進協議会までご連絡ください。

異常産ワクチン接種について

- ◆接種時期：4～6月（吸血昆虫の活動が活発になる前）
- ◆ワクチンの種類：牛異常産3種*又は4種不活化混合ワクチン（*アカバネ病、*チュウザン病、*アイノウイルス感染症、*ピートンウイルス感染症）
- ◆接種方法：
繁殖牛に4週間間隔で2回、筋肉内に接種
昨年度接種した牛は1回、筋肉内に接種



アイノウイルス感染症による脊柱のわん曲

近隣諸国における悪性伝染病発生情報

病名	型	発生地（国）	畜種	発生年月日
口蹄疫	O型	ロシア（9件）	豚・山羊・羊	平成31年1月28日～2月12日
アフリカ豚コレラ		中国（8件）	豚	平成31年2月8日～平成31年2月27日
		ベトナム（3件）	豚	平成31年2月1日～2月17日

平成31年3月1日時点



毎月20日はくまもと家畜防疫の日

定期的な消毒を実施しましょう！

